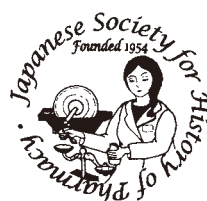


薬史レター

日本薬史学会

J S H P



第 61 号

2011年10月

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 (財)学会誌刊行センター内 日本薬史学会事務局
TEL (03)3817-5821 FAX (03)3817-5830 URL <http://yakushi.umin.jp/>

日本薬史学会2011年会(名古屋)のご案内

日本薬史学会 2011 年会
年会長：河村典久(金城学院大学薬学部)

日本薬史学会 2011 年会を 2011 年 11 月 12 日に金城学院大学薬学部において開催し、翌 13 日には、愛知県西尾市立図書館にあります『岩瀬文庫』にて開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：平成 23 年 11 月 12 日(土)・13 日(日)

12日会場：金城学院大学 W9-106

〒463-8521 名古屋市守山区大森二丁目 1723 番地

13日会場：岩瀬文庫

主 催：日本薬史学会、日本薬史学会東海支部

後 援：日本医史学会、愛知県薬剤師会、金城学院大学

年会事務局：金城学院大学薬学部

住所：〒463-8521 名古屋市守山区大森 2 丁目 1723

担当 野々垣常正 E-mail: yakushi@kinjo-u.ac.jp

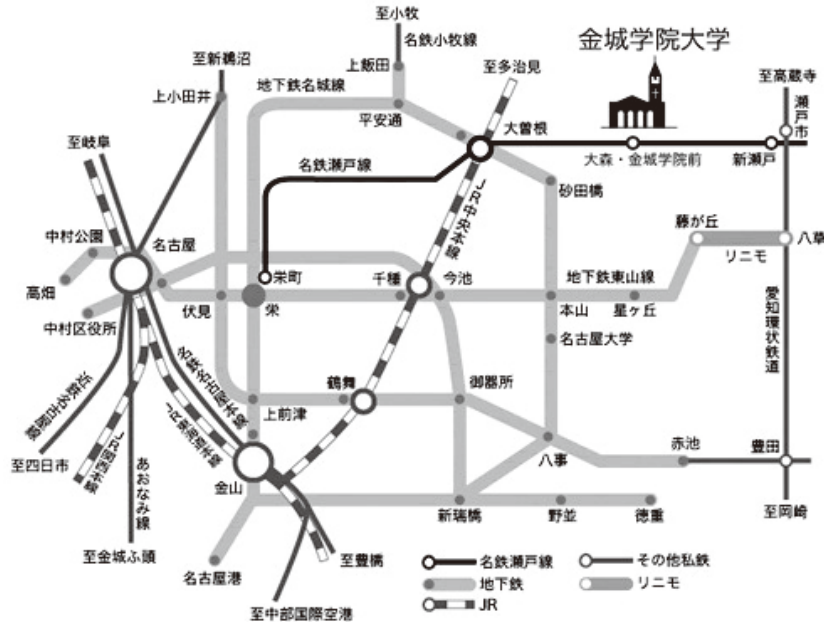
電話：052-798-0180(代表) 電話・FAX：052-798-7496(河村直通)

2006 年 11 月に名城大学奥田潤名誉教授のお世話で行われて以来、久しぶりの名古屋での薬史学会の年会です。今春 3 月の東日本・東北の大震災の影響を受けなかった中京地区で、東西の会員間で交流の成果が上がることを学会本部として希望して止みません。

11月12日(土)金城学院大学会場までのアクセス

名古屋駅から約20分、栄から約15分!

名鉄瀬戸線栄町駅から大森・金城学院前駅まで、急行で約15分。JRを使えば金山駅からのアクセスもスムーズです。



【JR名古屋駅から】

一旦改札を出て、名古屋地下鉄・東山線『名古屋』から「藤が丘」行ききの1両目に乗車、二つ目の『栄』で下車、改札を出て左折し名鉄瀬戸線『栄町』から「尾張瀬戸」行ききの1両目に乗車、(普通電車で21分、急行電車で16分)『大森・金城学院前』で下車、徒歩5分

【JR大曽根駅から】

一旦改札を出て、名鉄瀬戸線『大曽根』から「尾張瀬戸」行きに乗車、『大森・金城学院前』で下車、徒歩5分

【中部空港から】

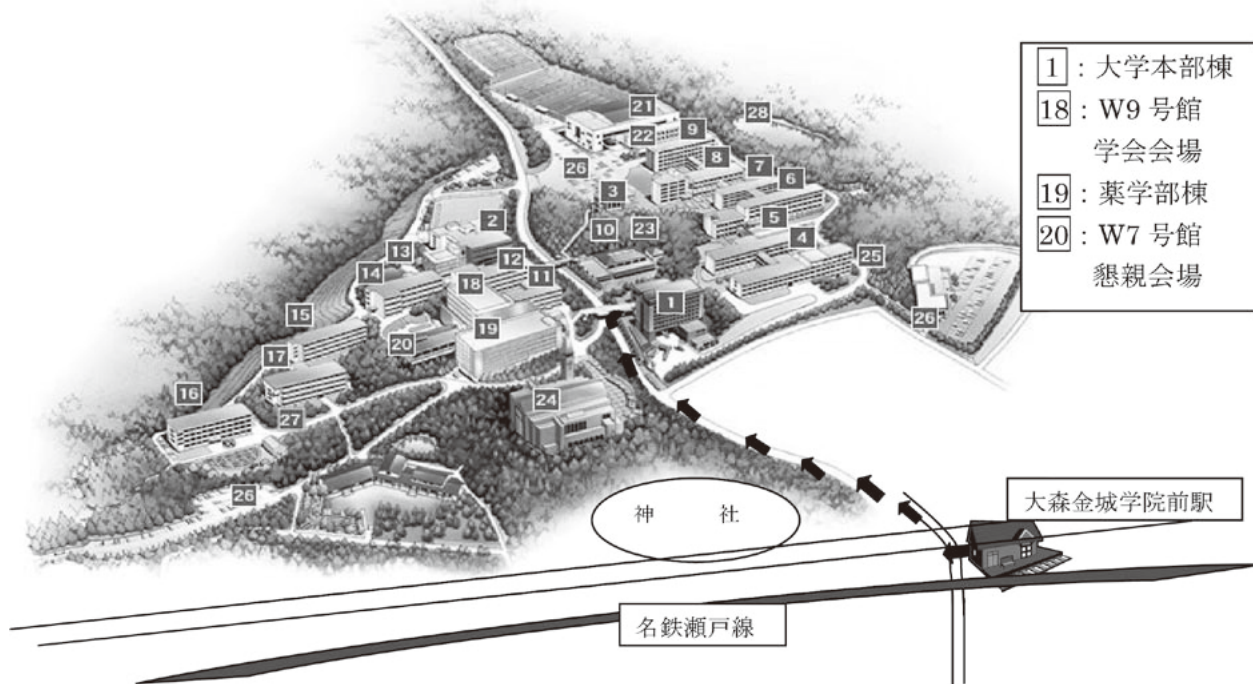
名鉄電車で『中部国際空港』から名古屋方面の電車に乗車、『名鉄名古屋』で下車、後は地下鉄と名鉄瀬戸線です。

薬史レターへの投稿をお待ちしています

- ・薬史に関するエピソード(短編事項)
- ・薬学教育および研究に関する話題
- ・製薬技術についての歴史と話題
- ・病院あるいは街の薬局での薬剤師の業務の変遷などの回想
- ・文学作品(詩歌、俳句、川柳など)美術工芸品などにみられる、医薬に関係するもの、薬用植物の記事、図譜など
- ・薬史に関する博物館、史料館や展覧会などの紹介
- ・薬史に関する図書の紹介および資料など

(以上は薬史レター第41号4頁の投稿のヒントの要約です)

会場(金城学院大学)への道順
 キャンパスマップ・施設

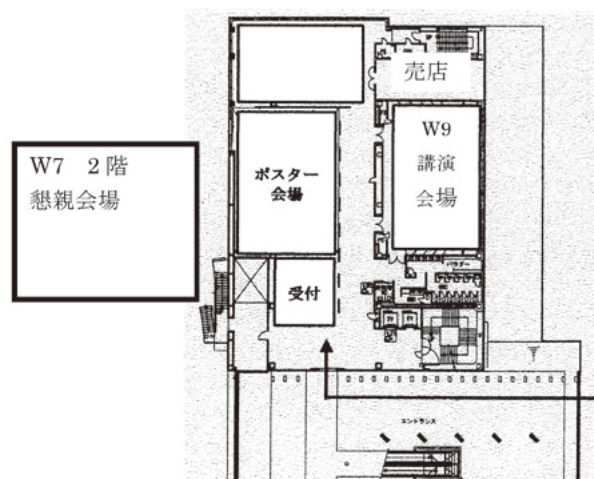


名鉄電車『大森・金城学院前』駅を降り、北出口から神社横の信号機を山の方に200メートルで煉瓦造りの大学本部棟[1]があります。あとは案内標識に従って会場(W9号館[18])までお越しください。

学会会場案内

会場見取り図

【W9号館 1階】



キャンパス内での注意事項

大学キャンパス内及び『大森・金城学院前』駅からキャンパスまでの通学路は**全面禁煙**になっています。喫煙場所はありませんので、ご協力をお願い致します。

11月13日(日)岩瀬文庫(西尾市立図書館)へのアクセス

岩瀬文庫(西尾市立図書館の隣接)

所 在: 愛知県西尾市亀沢町 480(電話: 0563-56-2459)。愛知県のほぼ中央南部です。
名古屋駅から名鉄電車で1時間ほどかかります。

交 通:

【JR 名古屋駅から】

名鉄電車『名鉄名古屋』から名古屋本線上り(豊橋方面)で、『新安城』で名鉄西尾線に乗り換えて『西尾』で下車、駅前からタクシーで5分(徒歩で20分)

当日、名鉄名古屋駅 8時52分発の西尾線直通『吉良吉田』行き急行電車では『西尾』に9時43分に到着します。この電車に乗車していただきますと、タクシーにて西尾図書館までご案内いたします。

【岩瀬文庫の資料閲覧について】

資料閲覧を希望される先生は、あらかじめ岩瀬文庫に資料名などを申し込んでください。当日は混雑が予想されますので、できるだけ事前に申し込んでください。資料リストは、ホームページ <http://www.city.nishio.aichi.jp/nishio/kaforuda/40iwase/index.html> です。

なお、詳細は講演要旨集に掲載します。

岩瀬文庫には食堂はありませんので、周りの食堂をご利用ください。

日本薬史学会2011年会(名古屋)プログラム

受付開始(9:30~)

開会の挨拶(10:00~10:05)

日本薬史学会 2011 年会長 河村 典久

一般講演発表

口頭発表 1 (10:05~11:05) (W9 号館 106)

座長 永津 明人

O-01 『在鮮日本人薬業回顧史』(昭和36年刊)について ————— 石田 純郎

O-02 宗教史に見出される薬と薬壺 ————— 奥田 潤

O-03 医と薬の相克、薬と薬の確執-変動期のアポセカリ- ————— 柳澤 波香

O-04 薬学教育改革における医療薬学の受容 ————— 赤木佳寿子

特別講演 1 S-1 (11:10~12:10) (W9 号館 106)

座長 永縄 厚雄

印籠と薬-江戸時代の薬と包装 ————— 服部 昭

日本薬史学会 理事・評議員合同会議(12:10~13:10) (W9 号館 2階 205)

一般講演発表

ポスター発表(13:10~14:00) (W9 号館ロビー)

P-01 インドの薬学の父 Mahadeva La 1 Schroff ————— 夏目 葉子

P-02 生薬としての玳瑁(2) ————— 多胡 彰郎

P-03 わが国の医療機器および理科学機器取り扱いの変遷
- 医療用ガラスから理科学ガラスへ - ————— 宮崎 啓一

- P-04 金城学院所蔵『本草図譜』と他資料との比較研究 山草部、芳草部 —————野村 知世
 P-05 金城学院所蔵『本草図譜』と他資料との比較研究 毒草部 —————山田ゆきの
 P-06 印葉図保存による金城学院大森キャンパス内の植物調査 —————上野 伶緒
 P-07 ハンセン病の薬学的キリスト教文化研究 —————野田 康弘
- 特別講演 2 S-2 (14:00 ~ 15:00) (W9 号館 106)** 座長 河村 典久
 宇田川榕菴の西洋植物学受容過程について—————遠藤 正治
- 口頭発表 2 (15:00 ~ 16:00) (W9 号館 106)** 座長 飯田耕太郎
- O-05 連翹の基原について～成分からの一考察～ —————西部 三省
 O-06 佐渡の“よろけ”治療薬「紫金丹」と石見銀山・中村家処方メモ「萬金丹」——成田 研一
 O-07 ①『傷寒論』・『金匱要略』における昼夜の服用法の意義—————鈴木 達彦
 O-08 コレラの薬盛衰記－芳香散・沸騰散・石炭酸を中心として－ —————荻原 通弘
- 口頭発表 3 (16:00 ~ 17:00) (W9 号館 106)** 座長 野々垣常正
- O-09 医薬品の一般名に関する考察：(1)命名の手続きと規則—————三澤 美和
 O-10 WHO 必須医薬品モデルリストにみる血漿分画製剤の歴史 —————坂上裕一郎
 O-11 光学活性医薬品・関連技術の歴史的変遷－その1－アミノ酸の光学分割史 ———吉岡 龍藏
 O-12 わが国のアミノ酸系医薬品開発 50 年の変遷 (その 4)－タンパク系製剤－ ———荒井裕美子
- 口頭発表 4 (17:00 ~ 18:00) (W9 号館 106)** 座長 藤井 広久
- O-13 日向薬(くすり)事始め(その 12)
 —明からの二人の帰化医人、何欽吉と徐之遴並びにその周辺— —————山本 郁男
 O-14 ヨーロッパ中世初期における薬草使用と剤形に関する考察 —————田中 玉美
 O-15 清代湖南省湘潭の薬材商人について —————石川 晶
 O-16 リヨン(フランス)の医薬品産業：その歴史と他産業によるイノベーション
 —————ジュリア・ヨング

次年度年会長挨拶

閉会の挨拶

日本薬史学会 2011 年会長 河村 典久

懇親会 18:00 ~ 20:00 W7 号館 2 階

発表に関するご案内

【座長の先生方へ】

- ・ご担当開始の 30 分前までに受付にお越しください。

【口頭発表の先生方へ】

- ・運営・進行のため、時間厳守でお願いします。講演にはノートパソコンと、液晶プロジェクターを使用します。ノートパソコンは各自でご持参ください。ノートパソコンは会場でも用意しておきますが、特殊な使用方法をされる方は対応しかねる場合がありますので、あらかじめご留意ください。
- ・ご発表 30 分前までに USB 記録媒体などの発表データを「演者受付」に提出してください。
 発表時間につきましては演題数が多くありましたので質疑応答を含めて 15 分とさせていただきます。以下の要領でお知らせいたします。

予鈴 1 回：発表終了 1 分前（開始後 11 分経過） 予鈴 2 回：発表終了時（開始後 12 分経過）

予鈴 3 回：質疑応答終了時（開始後 15 分経過）

【ポスター発表の先生方へ】

- ・ポスター発表用のボードは横 90 cm 縦 180 cm です。標題番号はこちらで用意しますので、発表資料を各ボードに展示してください。
- ・午前 10 時までに演者受付にて受付を行ってください。ポスター掲示は午前 10 時から可能です。
- ・発表時間は午後 1 時から 2 時までです。発表ポスターの前で質疑応答を行ってください。
- ・展示ポスターは午後 5 時 45 分までに撤去してください。

雑感—日本の薬学、創建期から一世紀を経て大転換

山川 浩司

昨年 11 月 25 日に日独交流 150 周年記念で日本国際医学協会の企画による日独記念講演会に招待されて、「日本の薬学の創建期から一世紀」の講演をする機会があった。その講演会の記録文集は近く記念誌として出版されることになっている。

この講演会の機会に、創建期からの日本の薬学は、薬剤師として医療に直接に参加する事が出来なかったが、アカデミックな日本の薬学を長く世界に誇ってきた経緯を講演した。医薬分業法案が明治、大正、昭和期の国会で可決されなかったため、薬剤師は一世紀にわたり街の科学者、商人として医薬品と衛生用品の販売の活躍に留められた。

江戸時代の「士農工商」の身分制度により士分待遇の医師と商人としての薬種商の身分格差はどうしようもなかった。西洋の内科医の職能と錬金術技術を誇った薬局薬剤師の職能はフリードリッヒ II 世の医薬分業法施行以来、医師と薬剤師の職能の分離が確立していた。

明治初期にお雇い外国人により東京大学病院が建設されると、その病院の薬局開設運営にドイツ人薬剤師が来日した。しかしそれらのお雇い外国人のドイツ人薬剤師の活動は知られていない。明治期にはドイツが誇る有機化学を中心として学び帰国した人々により、日本の薬学は有機化学を中核として建設され、そのアカデミズムの伝統は明治から一世紀に亘り、欧米諸外国の薬剤師を養成する薬学とは異質のアカデミズムを誇ってきた。

1987 年 12 月に日米合同薬学大会がハワイのホノルルで開催された。日本から多数の薬学会会員が参加した。小生も天然物有機化学の研究成果を発表すべく参加した。しかしこの日米薬学大会は日米の薬学の参加者の双方にとって異質の会であった。天然物化学の会場に集まったのは日本人ばかりで、稀に入ってきたアメリカ人は異質の会場に入ったとして直ぐに出て行った。水と油の薬学人の会合であった。以来、日本薬学会は二度と日米合同薬学会議を開くことはなかった。しかし日本化学会はアメリカ化学会とホノルルで太平洋合同化学会議を数年ごとに開催している。私も 2 度参加し化学者同士としての成果を上げている。

2006 年から日本の薬学教育も世界の薬学教育に合わせて、医療の場で活躍し得る薬剤師を養成するための薬学教育六年制に一大転換をした。明治の初期に日本の薬学は建設されたが、医療人としての薬剤師を養成するのに一世紀を要したことになる。

様式2

日本薬史学会2011年会（名古屋）参加申込書

フリガナ ①氏名				②薬史学会会員 非会員 学生 (いずれかに○を付けてください)
③所属				
④住所	〒			
⑤電話		⑥FAX		
⑦E-mail				
⑧【懇親会】	参加する	参加しない	(希望を○で囲んでください)	
⑨【11月13日の岩瀬文庫探訪】	参加する	参加しない	(希望を○で囲んでください)	
⑩【11月12日の昼食弁当予約】	申し込む	不要	(希望を○で囲んでください)	
【参加費 (○で囲んでください)】				
1. 日本薬史学会年会	会員 (4,000円)	非会員 (6,000円)	学生 (1,000円)	
2. 懇親会	会員・非会員 (5,000円)	学生 (1,000円)		
3. 弁当	予約する (1,000円)			
⑪合計金額	_____円			
会費は当日会場にて受付けます。				

申し込みの送付先 年会事務局：連絡先

金城学院大学薬学部 担当：野々垣常正

〒463-8521 名古屋市守山区大森2丁目1723

電話・FAX送付先（河村）：052-798-7496

E-mail：yakushi@kinjo-u.ac.jp

事前参加申し込みは、10月30日をもって締め切り、それ以降は、年会当日とさせていただきます。

日本薬史学会東海支部だより

東海支部 奥田 潤
飯田耕太郎

○東海支部第2回例会

2011年3月20日13時30分より14時40分まで名城大学・名駅サテライト(MSAT)において東海支部第2回例会を行った。

演 題：くすりの道修町と少彦名神社(神農さん)

演 者：道修町資料保存会・くすりの道修町資料館
館長・宮本義夫先生

要 旨：

大阪の発達：

明治5年(1496)蓮如上人大阪本願寺建立し門前町が出来る

天正11年(1583)豊臣秀吉大阪城を築城 城下町が出来る

慶長19年(1614)大阪冬の陣

元和元年(1615)大阪夏の陣により大阪市街地荒廃

元和5年(1619)幕府の直轄地となり大阪は復興する

道修町の形成：

大阪城築城以前は道修町1丁目辺りは上町台地と西方の「大阪低地」、寛文・延宝(1661～1680)の頃道修町は「どうしゅ谷」とか「どしょう谷」と呼ばれた。

道修町の名前の由来：

道修寺、すぐれた医師、御堂の修学修道

薬種屋の集住地：

伏見町・舶来品・反物扱い

道修町・平野町・淡路町は唐薬種や和薬種の町

道修町の明暦4年(1658)文書 33軒の薬種屋仲間の署名捺印

道修町薬種仲買仲間：

享保7年(1722)株仲間として公認(内20軒は和薬問屋)となる

享保20年(1735)和薬・唐薬を扱う薬種仲買仲間として公認

大阪和薬改会所設立 淡路町1丁目：

元文3年(1738)和薬改会所廃止、株仲間としての和薬問屋は解消

薬種仲買の役割(近世の薬種取引)：

長崎 五箇所本商人唐薬種を落札し、唐薬問屋大阪へ廻送(海上、陸送)

大阪 薬種仲買仲間買い出し

- ① 手本荷物(中身の吟味)
- ② 直組(平均値段の算出、問屋との交渉)
- ③ 正味廻し(荷の計量 本商人・問屋・薬種仲買三方立会)

④ 薬種仲買希望概数を買取り品質を選別し袋に小分け(込やく)

⑤ 大阪市中や全国各地取引先へ売り捌く

少彦名神社：安永9年(1780)京都五条天神宮より分霊を勧請

神虎のお守り：文政5年(1822)これら流行時病除祈願のお守り施与
道修町文書大阪市指定有形文化財となる(平成19年4月6日)

出席者は40名で盛会であった。

○ 日本薬史学会 2011 年会 (名古屋)

薬史レター第60号および本号で記載のごとく、金城学院大学薬学部(名古屋)で河村典久教授(東海副支部長)を年会長として11月12日(土)に開催、13日(日)は岩瀬文庫を訪問することになり、東海支部として全面的に援助することになった。

○ 久能山東照宮訪問記

2011年4月17日静岡理科大学桐原正久先生(東海支部幹事)と筆者の1人(奥田)の2名で、静岡市の根古屋の久能山にある東照宮を訪れた。静岡駅からバスで日本平へ、ついでロープウェイで久能山東照宮へ到着した(所要時間片道約1時間)。東照宮の博物館(年内無休)には古文書、書籍、絵画、武具、武器、服飾品、調度品など、国宝、重要文化財など75種(185件)が収蔵されている。薬学関係では①びいどろ薬壺3箇、②菊桐蒔絵蓋付椀1口、③青磁乳鉢、乳鉢1具、乳棒1本、④薬刻小刀1本、⑤和剤局方6冊(朝鮮金属活字版)⑥香木伽羅1材を見ることが出来る。他に東照宮(拝殿)：祭神は徳川家康、相殿に織田信長・豊臣秀吉を祭る。

◆ 関西支部だより

第4回 日本薬史学会関西支部研修会報告

日本薬史学会関西支部長 村岡 修

平成23年6月18日(土)、16時30分から、「くすりの道修町資料館」(大阪市中央区道修町)において、「第4回日本薬史学会関西支部研修会」が開催されました。今回は服部 昭氏(日本薬史学会・評議員)を講師にお招きし「江戸時代一薬の携帯と包装」と題してご講演をいただきました。

本講演は印籠と薬、そしてその包装に関わる変遷のみならず、印籠の調査を端緒に氏が調査・収集された、江戸時代における薬のある暮らし、医療、薬の供給側の事情にも及ぶもので、以下の、①サンキライの使用 中国伝統医学の製剤、②薬のある暮らし 売薬の普及は社寺から、③薬の携帯と情報伝達 印籠の発祥と限界、④包装の考え方 気の遮断と紙の利用、⑤蘭学の影響 気体の概念 ガラス瓶の普及 の5部構成でお話いただきました。また、当時の実物資料もご持参いただき、参加者の閲覧に供され、参加者にとり、まさに、包装を通じて、薬に関し“故きを温ね新しきを知る”格好の機会となりました。



交流会場にて

氏は長年大手製薬メーカーに勤務される傍ら、医薬品包装に関するメーカー間の意思疎通や包装に関する統一された考え方がなく、さらに科学的な面からも論じられることのない状態であった頃から、包装に関するご研究を地道に継続されました。仲間を募り 1970 年代後半に医薬品包装懇談研究会を発足させ、後の創包工学研究会の基礎を作られ、その活動を通じて、やがて医薬品包装が社会的に認知されるに至った経緯がございます。

また、江戸時代の包装を論じるには、併せて薬事情のみならず当時の社会的背景の調査も重要で、これを通じても培われたであろうと思われる氏の幅広い教養の一端をご披露いただきました。またのご講演の機会が待たれるところです。

本研修会の演題にも深くかかわる氏の近著「印籠と薬－江戸時代の薬と包装」（風詠社、2010）からも、今回の講演の内容の一部をうかがい知ることができます。なお、本書の内容につきましては、薬史レター（第 57 号、2010 年 10 月）の当学会 山川 浩司 会長による新刊紹介をご参照ください。

研修会では十分な質疑応答の時間を確保できないこともあり、後に場所を交流会場に移して活発な意見交換がなされました。また、交流会の場では、松本 和男 常任理事から本部の活動状況および今後の展望についての報告がありました。

今後も当学会関西支部としては、支部活動の活性化の一方策として、継続して年 2 回の研修会を開催してまいります。なお、第 5 回目の関西支部研修会として、本年度の後半にくすりの道修町資料館館長（関西支部評議員）であります宮本 義夫 先生による「道修町と江戸時代の薬種仲買仲間」に関するご講演を予定しております。

今回の参加者につきましては、当学会会員に会員外の 3 名を加え、計 19 名（懇親会 計 16 名）でありました。今後も服部 昭 先生がご健康で、精力的なご研究を続けられますことを祈念して、「第 4 回日本薬史学会関西支部研修会」および「交流会」は盛会裏に閉会いたしました。